

針葉樹合板が高校の内装材に 使用されました

高 谷 典 良

合板は南洋材から針葉樹材への樹種転換が進んでいます。針葉樹合板のこれまでの用途は型枠用合板、構造用合板に限られていましたが、これからは内装用合板への用途拡大が課題です。

東京都では、都の工事から熱帯材を削減する方針を打ち出しています。その方針の一環として、東京都立武蔵村山東高校の改修工事にあたり、内装材に針葉樹合板が大量に使用されました。

使用場所は、一般教室、図書室、会議室、音楽室、視聴覚室（写真1）、体育館、柔道場、剣道場の壁や天井、そして廊下の腰板（写真2）などで、非常に多くの場所に多くの針葉樹合板が使用されています。平成8年度から10年度までの3年間でおよそ6,700枚の合板が使用されました。

樹種は音楽室は青森ヒバ、視聴覚室は秋田スギ、これ以外はすべてラジアータパインです。厚さは壁は12mm、天井は9mmです。これらの合板はすべて節の無い合板です。東京都の仕様では、節はあってもかまわないが、抜け節はだめだとのこと。針葉樹合板で、抜け節の無い合板を製造するのは難しいので、すべて無節の合板になりました。

表面は塗膜を造らない透明塗装ですが、表面の品質は必ずしも良好ではありません。ラジアータパイン合板には目ボレ、割れ、変色などがあり、ヒバ合板には春秋材部のはく離もありました。しかし、実際に使用されている状況を見ると、これらの欠点もまったく気にはなりません。公共の建物で、広い部屋に使用されているためでしょうか。広葉樹の内装用合板と比較すると、表面の品質、美観は多少劣るかもしれませんが、実用上はまったく問題はないようです。

針葉樹合板が型枠用、構造用に使用された当初にもありましたが、それまで使用していた南洋材合板と比べ、様々な欠点が指摘されました。今は何ら問題なく

使用されています。“針葉樹内装用合板は広葉樹合板の代替品ではない”という認識を製造者も使用者も持つべきではと感じました。

むしろ困ることは、ここに使用された合板はすべて無節ですが、“針葉樹合板でも内装用は節が無いのが当たり前だ”このような認識を持たれることです。

針葉樹内装用合板の需要拡大を図るにはこのような実用例が大切です。これらの合板を見て使いたいという注文もあるそうです。しかし、これからは節のある内装用合板の実用例も数多く積み重ねることが必要ではと感じました。

（林産試験場 合板科）



写真1 視聴覚室の内装材（秋田スギ合板）

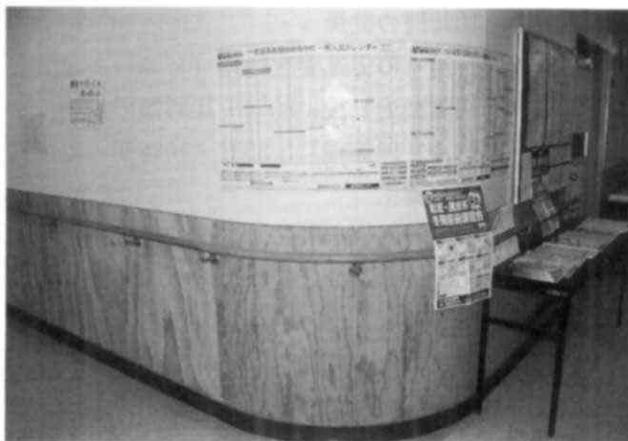


写真2 廊下の腰板（ラジアータパイン合板）